

拠点形成研究交流報告：CERELA-CONICET（アルゼンチン拠点）との共同研究・学術交流

令和元年10月15日(火)にアルゼンチン拠点の国立乳酸菌研究所（CERELA-CONICET）より、主任研究員のJulio Villena博士（本年度 東北大学教授として採用）とPhD大学院生のLorena Arceさん、Leonardo Albarracinさん、Mariano Eleanさんが来日し、Julio博士とLeonardoさんは2ヶ月間、LorenaさんとMarinanoさんは3ヶ月間滞在し、アルゼンチン拠点担当の北澤教授ならびに動物資源化学分野の学生と共に共同研究を推進しました。滞在期間中には、当研究科において、拠点形成事業国際シンポジウム「FAIN-CFAI International Symposium on Food and Agriculture, 2019」が開催され、Julio博士は“Progress in CFAI-CERELA collaboration and perspectives for the expansion of the food and agricultural immunology network in South America”のトピックスで共同研究成果と南米における拠点形成の将来性について話題提供されました。さらに、大学院講義「生物資源利用学」の1コマを担当され、若手研究者教育の一端を担って頂きました。来日された4名は、北澤教授および扇さん(動物資源化学分野M1)と共に、11月19日(火)～20日(水)に東京で開催された日本食品免疫学会設立15周年記念学術大会（JAFI2019）で、共同研究成果について発表した（扇さんが優秀ポスター賞を受賞）他、原田副センター長の企画で、茶会をJulio博士と共に経験することができ、大変興味を持って頂きました。

今回の滞在では、これまでの共同研究成果について10編の原著論文・総説にまとめ順次投稿・公表することができ、さらに新たなアイデアも創出することができました。令和2年度は、Julio博士が中心となってアルゼンチンにおいて拠点形成事業シンポジウムが企画され、こちらからも多くの教員と大学院生が参加し学術交流を行う予定で、拠点形成事業の今後の益々の発展が大いに期待されます。



Julio博士の大学院授業風景

茶会を経験するLeoとLore

国際シンポジウムで発表するJulio博士

JAFI2019ポスター賞

JAFI2019のポスター前で

共同研究風景

共同ゼミ風景

送別会